

ていばーく所蔵錦絵紹介（保永堂版⑳）

## 東海道五拾三次之内 荒井 渡舟ノ図（静岡県浜名郡新居町）



この図は、<sup>まいさか</sup>舞阪から<sup>あらい</sup>荒井（現在の新居）に向かって航行する参勤交代の大名の船を描いたものです。

前方の大名の乗った船には幕が張られ、大名行列に用いる白熊毛の槍、吹流しが立ち、船尾に立傘、<sup>たてがさ</sup>台傘が<sup>たいがさ</sup>包んで積まれています。後方の<sup>むしろ</sup>莖帆の船には、<sup>ともまわ</sup>荷物運びなど行列の供回りを務める<sup>ちゅうげん</sup>中間等が乗っています。

対岸の船着場は新居関所の中にあり、<sup>で</sup>鉄砲や<sup>おんな</sup>出女の改めが厳しく行われました。

ていばーく所蔵資料紹介④

## 簡易保険局製作の扇子



簡易保険事業は大正5年に創業されましたが、その後間もなく事業功労者に対し、日本画の巨匠が描いた扇子を制作して贈るようになりました。

この扇子は、大正7年に制作されたもので、当館に所蔵されている中では最も古いものです。扇面の絵は、<sup>えいきゆう</sup>松岡映丘の作で、<sup>ながえ</sup>長柄の<sup>ちようし</sup>銚子（お酒を注ぐ器）を持つ<sup>にょかん</sup>女官が描かれています。

（錦絵／資料解説：附属資料館 井上卓朗）